

Close-up Interview (9月号 表紙の顔)

キム・ソヒョン

KIM SOHYUN

「目標は優勝とトップ10入り。
実力で認められるプロになりたい」

プロ3年目、28歳のキム・ソヒョンプロ。韓国ボウリング界ではスポーツエリートとされる実業団チームの出身で、日本でもデビューイヤーからコンスタントに好成績を積み上げているが、3年前の来日の動機は「海外で暮らしてみたい」というもので、当初から「日本でプロボウラーになる」ことを目指していたわけではなかった——。
(PHOTO: 馬場高志)



◀日本語は学生時代に第二外国語として学び、大会で来韓する日本人選手に自ら話しかけるなどして少しずつ身につけていったそうだが、「ワーキングホリデーでの来日時「バイト先の居酒屋で覚えてた言葉が多いですね(笑)」という

ボウリング特待生

初めてのボウリングは小学校5年生のとき。「地域のボウリング大会があって、友だちに『一緒に出よう』と誘われたのがきっかけでした」という。

幼少のころにはテコンドーを習い、学校では友だちとバスケットボールなどをして遊ぶスポーツ大好き少女だったが、ボウリングはやったことがなく、最初は尻込みしていたが、体育の先生に「あなたはスポーツが好きなんだから、やってみたら」と背中を押されて出場することに。

「1回だけ練習に行っただけ、初めてスコアを付けて投げたときの点数は22点(笑)。でも、大会では80点のハンデをもらって3位でした。次の年も同じ大会に出て、そのときは1カ月練習して優勝。そこからボウリングが楽しくなりましたね」

小学校卒業後は、ボウリング専攻科のある中学へ特待生として進学した。

「最初のうちは体力トレーニングだけ、アプローチのステップ練習だけで、1カ月以上ボールに触らせてもらえなかった。本当に厳しくて、何度もやめようと思いました(苦笑)」

それでも「もう少し、もう少し」と必死で耐え抜き、高校→専門学校とボウリング中心の日々を過ごした後、実業団チーム(市役所のボウリング部)で3年間プレーした。

ちなみに、韓国のボウリング界ではプロよりも「各地域に6人くらい、全国でも男女合わせて230人くらいしかいない」という実業団選手のほうが、世間的なステータスは高い。ナショナルチームのメンバーに選ばれ、アジア大会や世界選手権

で上位入賞の活躍を続けると、生涯年金を得ることができるからだ。フジ取手ボウルの野田博社長によれば「夫婦そろって世界大会で活躍して、生涯年金を元手にボウリング場の経営者になった人もいる」そうだ。



▲(左)ロケ撮は襟元が左右非対称のユニークな黒のロングワンピース姿で(右)六甲クイーンズ3位入賞時のソヒョン。新人戦に続く2度目のTV決勝だったが、同様に緊張して力を発揮し切れなかった(©JPBA)

2年近いブランクを経て

残念ながら、ソヒョン自身はナショナルチームまでたどり着くことができなかった。

「実は一度ボウリングをやめて、韓国のKUMON(学習塾)で講師をやっていました。そのころからだんだん、海外で暮らしてみたいと思う気持ちが強くなって…」

彼女の趣味は「ひとり旅」だ。国内外の観光名所を巡るだけでなく、だれも知らないような田舎町に降り立ち、あてもなく歩き回るのも好きだという。

「セブ島やタイにも行きましたが、海外のひとり旅で安心なのは日本です。実業団時代には年に1、2回、旅行で来ていま

した」
2018年春、ソヒョンは日本で暮らすことを決意し、ワーキングホリデーを利用して来日。いつもの旅行だろうと思っていた両親には「今度はどれくらい行ってるの?」と聞かれたが、

ワーキングホリデーの期間終了後は、野田社長が身元保証人となって学生ビザを取得。引き続き日本語学校に通い、センターでアルバイト勤務しながら、翌19年春のプロテストに向けて練習に励んだ。

準備期間は半年足らずと短かったが、結果は見事トップ合格。ソヒョンはJPBA52期生としてプロデビューを果たす。

「学生時代に基本練習をみっちりやらされたお陰で、2年近く本格的に投げていなくても体が覚えてくれていました(笑)」

「後輩」の活躍も刺激に
プロテスト合格後、ソヒョンの学生ビザはエンターテインメントビザに切り替えられ、プロ活動だけに専念できる形での所属プロとなった。現在はリーグ2本とジュニアクラブの指導を受け持ち、トーナメント以外の活動も同センターのイベントが中心。スケジュールは青木孝真取締役(情報処理担当)と相談して調整しているという。

1年目はJPBA☆SSSカップ4位をはじめ6大会で入賞を果たし、ポイントランキング34位で第2シードを獲得。コロナ禍でシーズンが連結され、実質2年目の今期も出場11大会中8大会で入賞し、直近ではレディース新人戦(4位)、六甲クイーンズ(3位)の2大会連続でTV決勝に進出と好調だ。

「テレビ決勝は今年の新人戦が初めてで、とても緊張しました。顔には出さないようにしていたけど、私を知っている人は『緊張してたね』と(苦笑)。思いどおりに投げられなくなった瞬間に頭が真っ白になってしまっ

て…。テレビ決勝のマッチゲームは難しいですね」

それでも今後の目標を問うと、即座に「トーナメントで優勝することです」と返ってきた。「そのためにはまず(ランキングの)トップ10に入って、姫路麗プロや坂本かやプロみたいに、常に1位、2位で優勝を争うようにならないと。私は実力で認められるプロになりたいし、姫路プロのように、観る人に『カッコいい!』と思われるようなプロにもなりたいです」

前出の2大会でデビュー2連勝を飾った53期生の中島瑞葵ら「後輩」の活躍も「刺激になっている」という。「後輩といっても、私もまだ日本でのキャリアは短いので、学べるところは学びながら、ライバルだという気持ちで投げたいですね。やっぱり負けたくない気持ちが強いです」

現状、年内は残り7大会。目標達成に闘志を燃やすキム・ソヒョンに要注目だ。

取材協力: フジ取手ボウル

「後輩」といっても、私もまだ日本でのキャリアは短いので、学べるところは学びながら、ライバルだという気持ちで投げたいですね。やっぱり負けたくない気持ちが強いです」

現状、年内は残り7大会。目標達成に闘志を燃やすキム・ソヒョンに要注目だ。

取材協力: フジ取手ボウル

ソヒョンプロと一緒に投げよう!
近日開催予定のチャレンジマッチ

●9月12日
茨城・フジ取手ボウル
●9月23日
埼玉・ジョイナスボウル
※withキム・スルギ(52期)



キム・ソヒョン/1993年3月27日生まれ、韓国・城南(ソナム)市出身。164cm、右投げ。血液型AB。2019年プロ入り(52期/ライセンスNo.578)。20/21年度ポイントランキング20位、アベレージ207.20(六甲クイーンズ終了現在)。フジ取手ボウル所属。